

## インストラクター・サブインストラクターとして

2006. 7. 1 (土)

「OBSの教育手法」とよく耳にするし、言葉にもしますが、いったいどんなものなのでしょう。考えてみませんか？

1. 「アウトワード・バウンド」とは？
2. OBSの特徴（めざすもの）は？
3. OBSの教育目標は？
4. インストラクターの任務は？
5. アシスタントインストラクターの役割は？

「OBSの教育手法」とよく耳にするし、言葉にもしますが、いったいどんなものなのでしょう。・・・こんなふうを書いてありました。

### 1. 「アウトワード・バウンド」とは？

「いざ、外洋へ」という航海用語であり、参加者がコース終了後、日常生活の中で新たな一歩を踏み出してほしいという願いがこもっている。

### 2. OBSの特徴（めざすもの）は？

大自然の中での長期にわたる移動キャンプを通して、自分自身や仲間に対する信頼を回復し、自分らしく生き抜いていくたくましさをも身につけることにある。

### 3. OBSの教育目標は？

- (1) 好奇心の活性化
- (2) 物事に負けない根性
- (3) 自己コントロール
- (4) 粘り強さ
- (5) 思いやり

### 4. インストラクターの任務は？

- ①OBSの目的とそのプログラム内容をよく理解すること
- ②参加者の目標設定を助け、欲求を実現させる。
- ③親の希望を理解し、参加者に保護者の考え方を理解させる。
- ④家族的なよい雰囲気を作る。
- ⑤能力に応じた指導をする。
- ⑥参加者の活動を勇気づける。
- ⑦グループのプログラムを作る。
- ⑧プログラムの活動に参加する。
- ⑨生活及び行動を助言する。
- ⑩参加者の健康管理をする。
- ⑪キャンプ地周囲の自然環境を保全する。
- ⑫参加者の相談相手となる。
- ⑬参加者の体験報告を聞き、個別の課題設定の手助けをする。
- ⑭参加者グループ内のトラブルを解決する手助けをする。

### 5. サブインストラクターの役割は？

- インストラクターの指導補助
- インストラクターの個人カウンセリング中や本部ミーティング、保護者懇談の間は、アシスタントが班を把握する。

★参加者一人一人が日常生活で次の一歩を踏み出すきっかけをつかめるようにコースを運営していく。

<前半>

身の安全を確保するための基本技術を中心に指導

<後半>

グループだけで行動できるように、しだいにグループ決定に基づく場面を増やしていく。

コースに入る前に・・・

インストラクターとサブインストラクターがそれぞれ、そして、一緒に考え、話し合ってみませんか？

## 1. 具体的行動目標について

\*どんなこどもにしたいですか？（目指す子ども像）

\*自分自身、何を成し遂げたいと思いますか？また、どのようにしてそれらを成し遂げようと思いますか。

\*自分にとって、コースから何を得たいと思いますか？また、それはどのようにしたら得ることができると思いますか？

\*自分は、コースの中で何をするのでしょうか？（個人的、専門的な理由）

## 2. 役割について

\*あなたのチーム（イントラとサブ）は、「リーダーとサブ」ですか？  
それとも、「インストラクターとサブインストラクターとの共同体」ですか？  
その違いは、あなたのチームやグループにとって、どのような効果がありますか。

\*あなたは、チームの一員として、どのようにして役割を果たしていきたいですか？

\*子どもたちに、どのようにして接していきたいですか？

\*子どもたちの注意を引くために、どのようにしますか。

\*子どもたちのようすに対して頭にきたとき、どうしますか？

### 3. 指導の仕方について・・・イントラとサブで話し合ってみましょう。

\*どのようにしてコースを進めていきますか？（コースの構想）

トレーニング・フレーズ

エキスペディション・フレーズ

ファイナルエキスペディション・フレーズ

コンクルーディング・フレーズ

◎どのようにして構想に近づいていきたいですか？

◎どのようにしてその概念を子どもたちに伝えていきますか？

◎コースの進展にあわせて、どのように指導の仕方や指導上の約束を変化させていきますか。

\*次にあげることについて、どのようにバランスをとっていきますか？

◎ 「非指示的」と「指示的」

◎ 「立ち向かわせていく、刺激を与えていく」と「自然の成り行きに任せる」

\* 「してほしいこと」や「きまり」をどのようにして伝えますか。

（話し合い、伝える、など）

\* 「してほしいこと」と「きまり」の違いはなんですか？

\* 「してほしいこと」や「きまり」に対して、どのように反応しますか？

（称賛、叱責、など）

\*非常事態のとき、どうしますか。

(だれが行くのか、だれが残るのか、誰かを連れて行くのか、など)

\*どのような口調で子どもたちに接していきますか？

(厳しく、隔たりを持って、陽気に、親近感を持って、命令口調で、など)

#### 4. 一緒に過ごすチームの人へ

インストラクター → サブインストラクター

サブインストラクター → インストラクター

\*守ってほしいこと、「こうしてほしい!」と思うことを3つあげましょう。

(1)

(2)

(3)

#### 5. 基本的な日課について

インストラクターとサブインストラクターで話し合っておきましょう!

◎チャウサークル

◎ミーティングの持ち方

◎ディップ

◎仕事の割り当て、ローテーション

◎日誌(個人、グループ、ソロ)

◎その他

ソロのときの課題

リーディング

テント

常備薬

等

子どもたちの安全を守るために指導者がハード・スキルを身につけることはもちろん大切なことですが、同時に、このキャンプのねらいからして、コースの中で行うミーティングやグループワークの技術（ソフト・スキル）を身につけていくことが重視されています。

そこで・・・

ロールプレイングをしながら、ミーティングやカウンセリングの仕方について、みんなで考えていきましょう。

<ロールプレイング・・・例題①> \*出発・・・生活のリズムを作るために

朝の出発の時間を決めただけ、それを守ろうとしない。朝食の片付けも、荷物の準備もマイペース。・・・予定よりずいぶん遅れて出発。

☆起床～出発まで

・指導者の動き、言葉かけ

☆夜のミーティング

<ロールプレイング・・・例題②> \*休けいのとり方

休けいの時間を決めてもその時間を守ろうとしない子がいる。「早う行こうやあ!」「もうちょっと待って!」・・・なかなか出発できない。

☆自分たちの決めた休けい時間が終わっても、まだ出発しないとき

<ロールプレイング・・・例題③> \*集団になじまない行動をする子に対して

みんなからだんだん遅れて歩くようになり、そのうちしゃがみこんで「家に帰りた!」と言い始めた。

☆しゃがみこんだとき・・・

# ～グループカウンセリング・・・ミーティング～

## 体験サイクル

(1) 体験する 【何かしてみる】・・・自分の具体的な体験

\*内容

教室・フィールド・生活の場などで行動する。



動く・見る・言う、など

<キーワード>

- ・ 参加
- ・ 没入
- ・ 何でもやってやろう
- ・ 行動

(2) 指摘する 【何が起こったか、プロセスを見る】・・・体験のわかしあい

\*内容

そこで起こったことについてのデータを集める。



自分について ⇒見たこと  
他人について ⇒感じたこと  
グループについて⇒気づいたこと

<キーワード>

- ・ データ集め
- ・ とまって見る
- ・ 感受性
- ・ 泥くさく
- ・ 知覚

(3) 分析する 【どのように、なぜ起こったか、プロセスを考える】

・・・データの奥にあるもの

\*内容

集められたデータの意味すること  
そのようなことが起こった理由  
その背後にある流れ

をつきとめる。



自分 } の問題点を考察  
他人 }  
グループ }

<キーワード>

- ・ 深く
- ・ 内にあるものに向かって
- ・ 本質に迫る

(4) 仮説化する 【学んだことは?】・・・体験が私に教えてくれたこと

\*内容

分析し、考察したことを基にして、自分なりの仮説をつくる



次の機会には、どのような行動をとるか

<キーワード>

- ・ 発見
- ・ 自分のもの
- ・ 創造

(5) 試みる 【プランをたて、実行する】

\*内容

仮説（わかったこと）を次の機会にどのように適応するか、具体的に計画を立てる。

⇒プランどおり、積極的に行動する。

新しい体験学習のサイクルが始まる

<キーワード>

- ・ 大胆、緻密
- ・ 新鮮さ
- ・ 計画
- ・ 勇気
- ・ 実行

★体験を通して学んだり発見したことが、次の新しい場や機会でも積極的に試みられないと、体験学習は完結したことにはならない。

プロセス

\*どのようにしてプロセスを理解するのか。・・・データを収集するための3つの視点

★自分の五感を通して得る。

①コミュニケーションのデータ

- ・ だれがだれによく話したか？
- ・ 話した時間や回数？
- ・ だれがだれを支持したか？
- ・ どのような感情表出がなされたか？ など

②意志決定のデータ

- ・ 決めるのに要した時間は？
- ・ だれが決めたか？
- ・ 一人二人、多数決、合意 など

③雰囲気データのデータ

- ・ 不安、緊張感、凝集性、自由さ など

# キャンプに関わるスタッフとして 大切にしていきたいこと

子どもたちをいつも見ていたい。

・・・見ていることで、子どもたちを知ることができるから。

★子どもたちがいつも視界の中にいるように

★いつも、子どもたちと一緒に

\*そばにいても、はなれていても

\*子どもたちと一緒にいても、それぞれが

私はどこにいたら、  
子どもたちの姿がよく見えるかな？

子どもたちの話を聞きたい。

・・・聞くことで、子どもたちを知ることができるから

★子どもたちを見ていて思うことは、「推測」であって、「事実」とは言えない。

子どもたちと話し合いたい。

・・・8泊9日、「共に生きる」のだから。

★話し合うことで、お互いが理解し合い、信頼し合える仲間になっていくことができるだろうから。

子どもたちに伝えたい。

・・・(アシスタント) インストラクターだから。

★子どもたちが自分の進み方を自分で決めるために、いくつかの方法を提案する。

子どもたちは自分の進み方は、自分で選択をして決めます。でも、進み方がわからなかったり、見つけられなかったり、自分の方法では思うようにいかなかったりすることもあるでしょう。

そんな時に私たちにできること・・・「指示」ではなく「非指示」でもなく

「提案」を！！

いろいろな技法・手法があって、それをたくさん知っていることも必要でしょうが、  
まずは、が大切なような気がします。

心